



校区の遺跡や歴史をわかりやすく伝える「歴史教育」。住民みんなで校区を大切にという思いも伝えている



年明けの行事として親しまれているどんどや。もちを焼くひとときの会話も楽しみの一つ



15分歩こうプロジェクトとして江津湖沿いの道を歩く校区のみなさん。揃いのTシャツでみんなで歩いた



平成24年9月の「15分歩こうプロジェクト」をテーマにした講習会。157名の参加があった



出水南校区自治協議会の田口健郎会長

地域の子どもたちに伝えているのは、かつてこの地域に国府があり、肥後国の中心であったということ、地域を縦断する用水路『一の井手』が、治水の神様・加藤清正公の業績であることなど。

「授業が終わった後は、子どもたちの目がキラキラと輝くんです。『私たちの地元は凄い』という気持ちが生まれ、『誰かに伝えたい』『自慢したい』という話もしてくるようになります。この気持ちこそが郷土愛です。地元を知り、愛してこそこんなまちを作りたい！という気持ちが生まれてくるのでは

### 出水南校区 (平成25年4月現在)

人口計:12,488人  
世帯数:5,268世帯  
町内自治会数:11



ないかと思えます」と自然と歴史・民俗部会の林慶介会長は言います。

体と心の健康を、触れ合いの活動の中から生み出す出水南校区の皆さん。それこそが活力あるまちづくりの基礎になります。

どの外出や趣味活動などが続けられ、体と心の健康が保たれることから、校区で取り組んでいるものです。ささえりあ水前寺などと連携して平成24年度に開催した講演会には、会場からあふれるほどの住民が参加。正しい歩き方などを学びました。また、その一環として江津湖フェスタの際などに江津湖まで歩くなど、歩行の大切さを地域の人たちに伝えていきます。

また、2年に一度、秋に行われる体育祭も、楽しみながらの健康づくりに重要な行事。徒競走、玉入れ、ダンス、ムカデ競争などのほか、種目最後に行われる町内対抗リレーでは、各町内の代表が競います。抜いたり抜かれたり、その度に大喝采が起こります。

毎年1月に校区で力を入れて行われている行事がどんどや。町づくり推進委員会が主催となつて行われ、前日、自分たちで竹を切るところから始まります。男性たちが中心となって高さ約8メートルの高さに竹を組み上

げます。当日は高齢者から小さな子どもまで集まり、空高く燃え上がる火を眺めながら、一年の無病息災を祈ります。

毎年2月に行われる大綱引きも各町内対抗です。直径60センチ、長さ50メートル、枝分かれした部分まで含めると全長150メートルの綱を各町内の住民150名で老若男女、一体となつて引っ張ります。「毎年参加したい」と、参加者も徐々に増え、地元で愛されるイベントの一つとなっています。

### 地元を知り、誇りに思い、継承していく 気持ちで郷土愛

**奈良** 治の中心だった国府や国分寺など歴史遺産に恵まれた出水南校区では、「自然と歴史・民俗部会」の活動が盛んです。

“故郷を愛する心を育てる”を目標に挙げ、小学校に赴いての歴史教育や校区の歴史文化の調査などの活動を行っています。